

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	英語 V B (3)	
科目基礎情報							
科目番号	0116		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		後期:2		
教科書/教材	自主教材						
担当教員	嵯峨原 昭次						
到達目標							
1. 英語VAで習得した11種類の演習方法を総復習しながら、上級レベルのリスニング、スピーキング演習ができる。 2. 特に、Speaking on the spot (即興英語能力) を習得することができる。 3. 将来海外で生活するうえで必要なコミュニケーション能力 (英語力・異文化理解) を習得することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	読んだ内容について、その情報や考えを、過不足なく全て要約できる。		読んだ内容について、その情報や考えを、概ね要約できる。		読んだ内容について、その情報や考えを、要約できない。		
評価項目2	聞いた内容について、その情報や考えを、過不足なく全て要約できる。		聞いた内容について、その情報や考えを、概ね要約できる。		聞いた内容について、その情報や考えを、要約できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育プログラムの学習・教育到達目標 2-3 教育プログラムの学習・教育到達目標 4-3 本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標 4-b 教育プログラムの科目分類 (1)② JABEE (2012) 基準 1(2)(a) JABEE (2012) 基準 1(2)(f)							
教育方法等							
概要	英語VAで習得した11種類の演習方法を総復習しながら、それに基づき、上級レベルの実践演習をして、最終的に、スピーキングテストで英語が話せるようになることを目指して、学生に積極的に演習に参加してもらいます。グローバル社会の中でも使える英語力の養成を目指します。						
授業の進め方・方法	4年次までに習得した英語 (語彙・文法・読解等) を踏まえ、スピーキングの力を養う。この授業では、それを達成するために、英語VAで習得した11種類の演習方法をに基ついて、上級レベルの実践演習をしてもらいます。演習への積極的な取組みを期待します。						
注意点	本科目は学修単位 (講義Ⅰ) 課目であるため、指示内容について60分程度の自学自習 (予習・復習) が必要である。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		授業の進め方と授業内容・方法を理解できる。		
		2週	演習① (強弱読み、Following)		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		3週	演習② (速読)		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		4週	演習③ (要約[Summary])		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		5週	演習④ (Short Speech)		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		6週	演習⑤ (Speech)		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		7週	演習⑥ (Speaking (1) 絵カード説明)		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		8週	演習⑦ (Speaking (2) 瞬間英作)		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
	4thQ	9週	演習⑧ (Speaking (3) on the spot)		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		10週	演習⑨ (Survival English)		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		11週	演習⑩ (異文化コミュニケーション(1))		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		12週	演習⑪ (異文化コミュニケーション(2))		演習の方法を理解して、それに基づいて実践演習できる。		
		13週	Speaking Test (1)、レポート作成		前半グループの学生がSpeaking Testで英語を話すことができる。		
		14週	Speaking Test (2)、レポート作成		後半グループの学生がSpeaking Testで英語を話すことができる。		
		15週	試験の答案の返却・解説		試験において間違えた部分を理解できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---